

本当の気持ちを伝える大切さ

ガンボルド エンフマー
GANBOLD ENKHMAA

日本に留学して、八代で過ごしたこの3か月は「光陰矢の如し」でした。そして、この3か月は私の性格を大きく変えてくれました。生来、他人に本当の気持ちを言えない私が日本に留学生としてやってきたのは、大変な挑戦でした。

来日したばかりの頃、日本人ばかりのクラスに一人で入り、なかなか友達ができなくて、いつもモンゴルの家族のことを思い出してばかりなどいて、悩みが大きかったです。学校の先生に「大丈夫ですか。困ったことはありませんか。」と聞かれても、「はい、大丈夫です。」と答えていました。これは、先生に本当のことを言っても、先生は手伝ってくれないだろうし、理解さえもしてくれないと思いこんでいたのと、何よりも迷惑をかけたくなかったからです。ある日、先生にまた「大丈夫？もうすぐ試験だよ。」と注意されました。私は困っていたにも関わらず、例のごとく「大丈夫です。」と答えました。同じクラスで私の世話役を担ってくれている日本人チューターに対して、「一緒に勉強しよう。」と声をかけてもらったのに、彼女の邪魔になったらいけないと思い、せつかくの申し出を断り、一緒に勉強することをしませんでした。そして、試験前は自分なりに、できる限り勉強しましたが、赤点をとってしまいました。

先生もチューターも私を手伝おうとしてくれていたのに、私は本当のことを言えず、悪い結果を招いてしまいました。その後、チューターと話したところ「もし、先生に『わからない』と言えば、補講授業を受けさせてくれるなどいろいろな方法

があるよ。だから、何でも言ってくれたら嬉しい」と言ってくれました。そして、クラスで日本人の学生を見てみると、何かわからないことがあると、すぐ先生や友達に尋ねていて、「わかっている？」と聞かれて、わからない場合は「わからない。」とはっきり言っていました。

本当の状況や気持ちを言わないと、相手は嘘の言葉を信じてしまうでしょう。ですから、自分の問題を自分だけで乗り越えるという保守的な考え方はやめて、周囲の人を頼って、一緒に取り組んで、自分の気持ちや問題を自分だけで抱えず、小さなことでも相談することが大事だと感じました。

私の留学生活はまだ始まったばかりです。これからは自分の気持ちや問題を周囲にしっかり伝えるようにして、周りの人の協力を得ながら、留学生生活を充実させていきたいです。